

平成 27 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(岸地区)

開催日時	平成 27 年 10 月 21 日 (水) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	岸集会所	
町民参加者	男 21 人 女 1 人 (40 代以下 0 人、50 代 2 人、60 代以上 20 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画財政課長、総務防災課長、環境担当課長、参事兼都市整備課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：廃屋の対策について》

○南原から大口に向かう県道の左側にある戸建住宅は、20 数年前から居住している方がいなく建物が一面つる草に覆われてしまっている。近隣からも火災になったときどうするのかという声も聞かれる。自治会として取り壊してもらおうようにするにはどうしたらよいか。

《テーマ：県・町道の車両増加に伴う整備計画と通学路の安全・安心について》

○蛇行している県道 74 号線や幅員の狭い県道 721 号線について、小田原百貨店やコメリが進出してきたが、次に違う商業施設や企業等がくることになった場合に、交通量が増えて弊害が出てくるのではないかと。また、災害時第一次路線となっている県道 74 号について、地震等の災害の時に大型車両が重なってしまうと緊急車両が入ってくるのできない場合が想定される。

○町道が通学路に指定されているところが多いが、町道の交通量が増加している。また、今の通学路はブロック塀の脇を通るところが多く、地震等の時は崩れる危険性もある。町としてはどのように通学路の安全を確保していくつもりか。

○昨年はトヤマが丸山に立地されることにより関係車両や観光車両の通行台数が増加するので川村小学校の下に歩道橋を作ってはどうかと連合自治会として提案したが、無駄なものを作るのではなく、その前に安全な通学路とはこういうものだということを考える必要があるという話しになった。

《テーマ：町政全般》

○自主防災組織について自治会まかせとなっている。現実には自治会長の任期は 2 年であり、組長については 1 年で交代となるので活動がうまくいかない。町で自治会とは別の組織として自主防災組織を作る等考える必要があるのではないかと。

○岸地区の避難場所が川村小学校となっているが、原耕地地区や宿地区に住んでいる者が坂を上って要援護者等を連れて避難するのは大変である。例えば向原地区が避難所としている山北高校に地域をまたいで避難所とできるようにしたらどうか。

○自治会の仕事をしながら自主防災組織を作るのは困難である。敬老会等で参加者に対して自分の身を守るためには、近所の人達と話をし、お互いに避難する場所等を確認してもらうようにしている。それが自主防災組織を作る前の個々の考え方だと思い、常に人が集まるときに話をさせていただいている。

○県道 721 号の小田原百貨店とコメリの出入り口の部分について、大雨が降ると側溝から水が溢れ広い範囲に水が溜まってしまい、歩道まで冠水する。車両が集中する場所なので水はけを良くしてもらおうよう町が先頭に立って県と交渉していただきたい。